第３回　池田市地域分権検討会議

（議　事　録）

日　時：平成２８年９月１５日（木）１４：００～１６：１５
場　所：池田市上下水道庁舎３階　研修室
出席者：＜各委員＞白水・橋口・初谷・久・吉弘（敬称略・五十音順）
＜参考人＞各地域コミュニティ推進協議会代表者（２４名）
倉田市長・藤田副市長・木田副市長・田渕教育長・石田病院事業管理者・長尾上下水道事業管理者・各部長・職員サポーター（５名）
＜事務局＞松浦・野村・北村・井上

１．開会
出席者報告、傍聴者数報告（２名）

２．議題
＜委　員＞
みなさんこんにちは。私達は池田市地域分権検討会議の委員ということで、地域分権の10 年間をもう一度再検証しようということで、今話し合っている最中です。今日は、現場でがんばってこられた皆さんに敬意を表するとともに、現場で感じておられることとか、あるいはこれからの市とコミュニティの関係はこうあるべきだというご意見とか、これからのためにどうしなければならないというご意見とかを伺えればと考えております。
＜委　員＞
まず、みなさんのアンケートを集めさせていただいて、なにより１０年間かなり苦労をされて前に進めてこられたんだなということがよく分かりました。その中で、なかなか市の方からみると、見落とされがちなニッチなところのニーズを掘り起こされて、住民からの意見というものがあったからこそできたんだろうなというところは評価できると思います。ただ一方で、みなさんがされようとしていることに対して、あるいはされたことに対して、住民の方はまずそのことに対して認識されておられない。あるいはそのみなさんのされていることが、うまく地域の方々に対して実感として伝わってこないということが、みなさまの中でもジレンマとしてあるんじゃないかなと思います。コミュニティの作り方、あるいは今まで進んできた地域のあり方というのが、どうしてもそういうふうになってしまうというのが、この 10 年間の中で大きくでてきたのではないかというふうに思います。
＜委　員＞
他の自治体も見て、やはり地域分権の趣旨や目的は非常に良いと思うので、ただこの間、

課題というものも出てきていると思いますので、その課題を皆さんと共にどうしたら良いのか、池田には池田のやり方があると思いますので、それを皆さんと考えていければと思っております。
＜委　員＞
　なによりも池田市は地方分権改革の大きな流れの中で先鞭をつけてこの問題に取り組まれたということで、私はその先駆性はたいしたものだと思います。
　地域分権は、地域で必要なことを決めるという部分と、その決まったことを実施していくという部分と２つの側面があります。その２つの側面のどっちに重きを置くかによって、すべての仕組みが変わってきます。それで、今池田市は両方の関わりを兼ね備えた仕組みを始められて１０年経った節目にこられていますので、これからどういうふうに進めていくかという一つの岐路かなと思っております。
＜委　員＞
　今日お集まりのみなさんにもう少しお聞かせいただきたいなと思っている点が２点。１点目は、いろんな方々のお声をどういう形で集める仕組み、仕掛けを動かしていらっしゃるのかというところ。それぞれの地域のたくさんの方から、いろんな意見を聞く機会をどのように作っていただいて、どのように予算制度の中に反映をされているのかなと。
　２点目は組織論の話ですが、町会と協議会との関係です。特に協議会の統制メンバーと町会の役員さんの関係を少し具体的に教えていただくと全体像が組織論的に出てくるのかなと思います。今までの団体さんと協議会の関係性、特に自治会と協議会の関係性がどのような状況にあるのかをより具体的に教えていただくと私達としてはイメージしやすいと思っております。
＜委　員＞
　小学校区という一つの子供を育てようというまとまりの中で、まさにその子供をお持ちの保護者層３０、４０、５０代の活動が弱い、そういう方々の認知度も低いのかもしれない。ただ、こういう活動にあまり関心を示さない人々こそが受益者層だということを、もっと訴えていくことがこういう活動の未来に重要なんじゃないかなと思います。
＜事務局＞
　まず地域住民の声はどうやって拾い上げておられますか？うちはこうやっていうところがあればお願いします。
≪地　域≫
　うちの地域では、毎年、年度初めにアンケート用紙を広報紙に挟んで地域内全戸配布して、これを投函してもらっています。ただ回収できるのは、現実的には５０件程度です。
≪地　域≫
　協議会のメンバーは、自治会、子ども会など、主だったグループから入っていただいて、月１回の会合をしています。それ以外には、住民座談会を２回開いて、その時に５つのテーマでディスカッションを行って、そこで出てきた意見を集約して、提案はすべてそこか

ら毎年議論していただいています。あと自治会の班長会議に届けてできるだけ声を聞く努力はしています。
≪地　域≫
　ＰＴＡの方の会議で、子どもの通学路の危険箇所とか、ここの交差点注意して下さいよとか、そういうことが毎年発表されるので、それを優先的にコミュニティの方で取り入れています。
≪地　域≫
　最初にこの会が出来た時に、将来このまちがどの様な形になっていくのが我々の理想の姿なのかという一つの冊子を作りまして、その線に沿ってアンケートや提案を取っております。ただ、われわれメンバーが作った提案でございまして、今から考えますと福祉の会とか老人の会とかそれから子ども会とか、そういう会とのコラボレーションが甚だ不足しております。ですから我々の提案が広く全市民の声を代表しているとは、決して思っておりません。
≪地　域≫
　一方で、協議会設立当時の会長が先頭に立って声掛けをしていただくなど、連合自治会長そして各種団体の方が必ずメンバーに加わっていただいております。そしてその中で皆さんの意見、各種団体及び各自治会の意見を吸い上げているつもりなんですが、実際の提案にどの程度反映されているかについては、なかなかうまいこといってないのではないかと思います。また地場産業とか根強い考え方も大事にしておるのは事実ですが、新しい考え方も入れながら皆さんと進んで行きたいと思います。
≪地　域≫
　やっぱり連合自治会があったからこそコミュニティが出来たと思います。まだまだこれから若い人に入っていただける、そんな状況にして行くというのが夢ですので、これからも頑張りたいと思っております。
≪地　域≫
　地域内の新旧の融合というのはできていません。いろんな団体に協力依頼をいたしましたが、入ってくれません。自身の人脈を使って、いろんな意味で融合と意見集約を図っているという段階です。一番の悩みは、次の世代にどうやってバトンを渡していくかということです。
＜委　員＞
　正直、地域によってそれぞれ違うんだなというのは確認させていただきました。市でいうと総合計画という１０年間の方針を決めるものがあります。まちづくり計画というのは、小学校区単位の総合計画ではないかなと思うんですね。毎年毎年予算がくるわけですが、毎年考えるのではなくて、少し長めに、長期的に考えていただいて、１０年間でどういうふうにしようよ、それについては１年目でこう使おう、２年前でこうしようという形でうまく計画立てて、体系立てて使っていくというためには、少し長めの計画、分野を越えた

計画というのがいいのではないかと思います。毎年毎年意見を聞くというのも大変ですので、このしっかりした計画を作る時にアンケートをとったり、ワークショップ、懇談会をやったりして、そこで集中的に意見を聞いていただいて、そしてそれを反映をしていただくことで、より効果的・効率的に住民意見を反映する方法もあるのかなと思いました。

旧村の中でのある地域の協議会の役割の例です。協議会の活動には、積極的に新しい方々が入ってくださる。旧のコミュニティの方は、旧のしっかりとした組織で、しっかりと動いている一方で、コミュニティの活動の中で新しい方々の活動拠点ができあがっている。こういうすみわけの仕方というのもひとつかなと思います。また、まだまだ村の組織というのは、男性が物事を決めていく、動かしていくというコミュニティなので、なかなか女性の発言権というのは、難しいです。けれども協議会の方は、私達が仲間を募って機嫌よく女性にとってすごく活躍の場面として協議会を使われておられる。そういったしっかりとした意思決定をする場面と楽しくなごやかに活動する場面というのをうまく組み合わせていっていただければ、それは旧のコミュニティだけではなく、様々なコミュニティの中でも使っていただけるんじゃないかなと思いました。

≪地　域≫

やはりいろんな団体に属されていない若い方の意見をどう集約していくかというのがすごく大事なことなんだなと感じています。新旧ということでは、新しい方にも入っていただいてますし、女性の視点というのも少しずつ浸透してきていると思います。女性が意見を言うというのは、視点が違うなと感じることはたくさんあります。地域も女性が入ることによって、コミュニティ自体が活性化するということを強く感じています。

＜委　員＞

今まで私たちが議論してきている中で前提としているのが、続けるかどうかも含めて、この地域分権の１０年間を検証してどうするべきかという事を考えましょうという事です。地域分権がなぜ必要なのかと考えた時に私の中では三つぐらいかなと思ったんですけども、例えば地域分権をする事によって地域分権が無い時に比べて住民の皆さんの意見というものを市長に対して伝えやすくなった。非常にコミュニケーションが深まるから地域分権が必要だと。もう一つは、市に任せていたら私たちのまちの中にある必要な行政サービスが得られないからそれを地域分権で達成することで私たちの町が住みよい町になる。三点目に、地域分権をやる事によって地域の中の人のつながりが深まるんだ。今までにある既存のいろんなグループと一緒に何かをする事によって地域のまとまり、コミュニティが深まるから地域分権は深まるんだと。

こういった点も踏まえて、率直のところ何のために地域分権をやるのか、地域分権でしか出来ないものって何なのかというもの、限界も含めて、皆さんの中で考えていただいたものを伺いたいと思います。

≪地　域≫

これからの我々の役目、コミュニティの役目が何かといったら、幅広く住民全員参加型

のコミュニティ、分権制度を目指してこれからもがんばっていきたいと思います。また、１０年の節目の見直しは必要だが、分権の制度そのものはやっぱり必要です。
≪地　域≫
　市の方も総括的な検証をされておりますが、地域においてもそういう第三者の評価というのが必要ではないかと思います。１０年どうやったというのではなくして、もう少し長期的な展望、計画性等々もくんでいかなあかんなと思っています。
≪地　域≫
　我々がやって欲しいと思っていたことが、なかなか出来なかったというのが事実なんですが、この地域分権が出来て、この事を先やって欲しいという地域からの意見を元に議会で承認をいただく事が大きな意義だと思います。
　もう一つ、市が中心にやると予算が高いんですね。我々ですれば半分ぐらいで出来る予算のものが、結局非常に高いものになる。せっかくの税金を我々が使わせていただくわけですから、できるだけ我々ができることはやっていきたい。
≪地　域≫
　今後地区で統括して地域活動を推進していくのはこの組織しかないだろうと思っております。ですから推進協議会というのは非常に重要な役割を果たしていきそうだなというふうに思っております。
≪地　域≫
　１０年経ちまして、人数は減ってはいるのですけど、何か新しい芽が出てきたかなと最近感じてはおります。地域の居場所づくりなど、「そういうことをやりたいんだ」という思いで参加しておられる女性の方も増えてきておりますので、新しい風が吹いてきたなというふうに思っています。
≪地　域≫
　最初は６０人ぐらいでスタートしたんですが、果たしてそれで住民の全員の意見が吸い上げられるのかという点がいまだに疑問にあります。それも税金を使ってやるというのが、果たしてこれでいいのだろうか、というのを常に思っております。
＜事務局＞
　時間が来ましたので、会場からのご意見はここで終了させて頂きたいと思います。それでは委員の先生方に総括というところでお話を賜りたいと思います。
＜委　員＞
　今日の総括という事でありますが、非常に様々な課題にぶつかっているという話がわかったというのが正直な感想でございます。地域分権自体は、池田市がパイオニアとして取り組まれてきて、仕組みとしては多くの自治体に波及しているわけですが、パイオニアだからこそいろいろな悩みだとか活動の上での課題に直面している部分もあるのかなと感じたところです。
　また、各地域の人々の忠誠心、そういうものを高めるような仕組みを今後どういうふう

になるかは別にしても、提案できればなと思います。
＜委　員＞
　コミュニティ推進協議会がどうなるかという話と、協議会からの予算提案制度がどうなるかという話は切り分けていかないといけないと思いました。予算提案制度がなくなったとしても、協議会は皆さんの地域で立ち上げて１０年経つわけですから、自らの力でまわして行くということも可能になってくるわけです。そのあたりの評価のところも気をつけて議論をさせていただきたいなと思っております。
　非常に注目をしているのが、３０代、４０代の専業主婦の方、それもすごくパワフルな専業主婦の方がいっぱいいます。皆さんの地域にもいるはずなんです。しかし中々見えてこない。実はその専業主婦同士はすごくつながっています。彼女たちはネット社会の申し子ですから、フェイスブック友達なんですね。なぜ皆さん方の足元におられる人たちがつながらないのか？ポイントは二つあると思います。一つは彼女たちに情報がうまく伝わっていない可能性がある。フェイスブックという道具がコミュニティから発信できているかどうかという問題ですね。もうひとつの問題点は、活動のやり方が違うという事です。トップダウン型の組織型のやり方というのは馴染まない。ゆるやかに有志が集まって、仲間が集まって、ネットワークを張っていくというやり方をする。そういう動き方の違いというのが中々しっくりこないのかなと思いました。
　もう一点、大阪市鶴見区に「えのもと地域活動協議会」というのがございます。去年の総収入は１億円を超しています。いわゆるコミュニティビジネスを始めています。そういうことですから、人を雇うというのが十分にできるというとこまで力をつけてきました。なぜ榎本地域がここまで力をつけてきたのか？ポイントとしまして情報をどんどん出していって、いろんな人たちを巻き込んでいったところが大きいのかなと思います。いろんな媒体でいろんな方々が声をかけられるような、そういう機会を作っていくしかないのかなと。一つの媒体ではなかなか難しくても、いろんな媒体で声を集めていくということがあれば、ちりも積もって山になるということです。そこを集約する、意思決定するというのがある意味難しいとこであります。でも、まずはみなさんがそういう気軽に声をあげられるような機会を作ってくださるのがよいかなと思います。
＜委　員＞
　何を目的にやるのかというのがすごく大事だと思っています。我々が議論して、３つに分類しています。地域分権というときに１つ目にみなさんの意見を市政に届けるというのは、公共的な意思決定みたいなものに参加するということの言い換えた言葉。２つ目に、なかなか自分達の思いに合うようなサービスが提供されてないのを、これをやることによってうまくできたじゃないかという２番目の話は、公共サービスの提供を協働していくと、そういうふうな言い方をしています。３つ目の、こういうことを続けることによって、まちのつながりが新たに生まれる。絆とかつながりが深まる、厚みを増すという効果です。この３つの目的をどういうふうに、どのぐらいのウェイトでやりたいのか、それをもう一

度共通認識をもてるかなというのが、お聞きしていて思うところです。

皆様方のご意見をうまく集約していきますと、きっとこの池田の仕組みは、先鞭をつけられただけではなくて、これからも大きな全国区のモデルとなると思います。

＜委　員＞

どうしても行政、役所は公平性、平等性というものが問われますので、それが一番大事なことであるが故に、色んな弊害、もうちょっとこうしたらいいんじゃないのという部分、スピード感が遅いだとか、コスト、費用のかけすぎじゃないかというような部分があります。単純に地域分権の制度は効率的といいますか、地域のニーズに応じて立案をしていくということで、やはり意義、効果というのは非常にあるんだと、ただやり方をもうちょっと変えていったらいいんじゃないかなという声が多かったような気がします。それも踏まえて考えていけたらと思います。

＜委　員＞

市とコミュニティとの役割分担のコミュニケーションは、これからより一層進めていく必要があると思います。今までされてきた事をこれから市に任せるのか、コミュニティが担うのか、そういった役割分担のコミュニケーションをしっかり深めた上で次のステップに進んでいくことが、必ず必要になってくるというのがひとつ。

二つ目に認知度の向上というのが非常に重要だという話だと思うんですけども、認知度の向上というのは、コミュニティの目的とかメリットを実感してもらうような伝え方をしていかないと、おそらく住民の理解を得ることは大きな課題となってくるのかなと思います。子育てであれ、安全であれ、地道に取り組んでおられることを住民の方に肌でメリットを感じてもらう事を進めることしか、わかってもらう方法はないのかなと思います。

あとひとつ考えなければいけないのは教育だと思います。神野先生がスウェーデンを事例に地域分権の理想像を語られましたけれども、あれはスウェーデンだからできることであるんですね。スウェーデンは、小・中学校の教科書を見ましたけれども、住民の子供たちに対して自分の地域をどうしますかという問いかけを中学生に対しておこなって、実践的な授業をしているんです。そういったところがあるからこそ、ああいった住民自治のコミュニティができていくということを考えると、皆さんの拠点である小学校、中学校に対して、自分の地域に対してどう関わるのかってことを考えてもらう機会が必要だと思います。小・中学生を地域に関わらせていくことが、将来的な地域分権の未来とつながっていくんだろうというふうに思います。

３．閉会